

欧文の文献

単著の本

Broadbent (1998) はこう述べている (Broadbent 1998)。

共著の本

- 著者がふたり

Berger and Berger (1972) はこう述べている (Berger and Berger 1972)。

- 著者が 3 人以上

Isaac et al. (1980) はこう述べている (Isaac et al. 1980)。

編書

- 編者がひとり

Douglas (1970) はこう述べている (Douglas 1970)。

- 編者が複数

Rubington and Weinberg (1965) はこう述べている (Rubington and Weinberg 1965)。

編書論文

Mayer and Roth (1995) はこう述べている (Mayer and Roth 1995)。

雑誌論文

Abbott (1995) はこう述べている (Abbott 1995)。

邦文の文献

単著の本

小熊（1995）はこう述べている（小熊 1995）。

共著の本

宮島ほか（1985）はこう述べている（宮島ほか 1985）。

編書

高坂・厚東（1998）はこう述べている（高坂・厚東 1998）。

編書論文

船橋（1998）はこう述べている（船橋 1998）。

雑誌論文

佐藤（1998）はこう述べている（佐藤 1998）。

学位論文

上野（2013）はこう述べている（上野 2013）。

翻訳書

Bourdieu（1984=1997）はこう述べている（Bourdieu 1984=1997）。

報告書

科研費など（report を使用）

那須（2010）はこう述べている（那須 2010）。

政府刊行物など（misc を使用）

独立行政法人日本学術振興会（2011）ではこのように触れられている（独立行政法人日本学術振興会 2011）。

学会発表

渡辺（2023）はこう述べている（渡辺 2023）。

ウェブサイト

科学技術振興機構（2023）ではこう言われている（科学技術振興機構 2023）。

オンラインのみのジャーナル（article でページ欄を空欄にしておく）

Lundberg（2022）ではこう言われている（Lundberg 2022）。

面倒なケース

同一年度で同じ著者の論文が複数ある場合

Denning, Eide, Mumford, Patterson, et al. (2022)、Denning, Eide, Mumford, and Sabey (2022) はこう述べている（Denning, Eide, Mumford, Patterson, et al. 2022; Denning, Eide, Mumford, and Sabey 2022）。

引用文献

Abbott, Andrew, 1995, “Things of Boundaries,” *Social Research*, 62(4): 857–82.

Berger, Peter L. and Brigitte Berger, 1972, *Sociology: A Biographical Approach*, New York: Basic Books.

Bourdieu, Pierre, 1984, *Homo academicus*, Paris: MINUIT. （石崎晴己・東松秀雄訳, 1997, 『ホモ・アカデミクス』藤原書店.）

- Broadbent, Jeffrey, 1998, *Environmental Politics in Japan: Networks of Power and Protest*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Denning, Jeffrey T., Eric R. Eide, Kevin J. Mumford, Richard W. Patterson and Merrill Warnick, 2022, “Why Have College Completion Rates Increased?,” *American Economic Journal: Applied Economics*, 14(3): 1–29.
- Denning, Jeffrey T., Eric R. Eide, Kevin J. Mumford and Daniel J. Sabey, 2022, “Decreasing Time to Baccalaureate Degree in the United States,” *Economics of Education Review*, 90.
- 独立行政法人日本学術振興会, 2011, 『人文学・社会科学の国際化について』独立行政法人日本学術振興会.
- Douglas, Jack D. ed., 1970, *Understanding Everyday Life*, Chicago: Aldine.
- 船橋晴俊, 1998, 「環境問題の未来と社会変動——社会の自己破壊性と自己組織性」船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12 環境』東京大学出版会, 191–224.
- Isaac, Larry, Elizabeth Mutran and Sheldon Stryker, 1980, “Political Protest Orientations Among Black and White Adults,” *American Sociological Review*, 45(2): 191–213.
- 科学技術振興機構, 2023, 「researchmap へようこそ」, researchmap, (2023 年 12 月 22 日取得, <https://researchmap.jp/public/about>).
- 高坂健次・厚東洋輔編, 1998, 『講座社会学 1 理論と方法』.
- Lundberg, Ian, 2022, “The Gap-Closing Estimand: A Causal Approach to Study Interventions That Close Disparities Across Social Categories,” *Sociological Methods & Research*, <https://doi.org/10.1177/00491241211055769>
- Mayer, Margit and Poland Roth, 1995, “New Social Movements and the Transformation to Post-Fordist Society,” Marcy Darnovsky, Barbara Epstein and Richard Flacks eds., *Cultural Politics and Social Movements*, Philadelphia: Temple University Press, 299–319.
- 宮島喬・梶田孝道・伊藤るり, 1985, 『先進社会のジレンマ』有斐閣.
- 那須壽, 2010, 『知の構造変動に関する理論的・実証的研究』2007～2009 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書 (19330119), 早稲田大学.
- 小熊英二, 1995, 『単一民族神話の起源——〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社.
- Rubington, Earl and Martin Weinberg eds., 1965, *Deviance: The Interactionist Perspective*, New York: Macmillan.
- 佐藤嘉倫, 1998, 「合理的選択理論批判の論理構造とその問題点」『社会学評論』49(2): 188–205.

渡辺健太郎, 2023, 「日本の研究者を対象とした無作為抽出調査は可能か」 科学技術社会論学会第 22 回年次研究大会発表資料.

上野千鶴子, 2013, 「ケアの社会学…当事者主権の福祉社会へ」 東京大学博士論文.